

# かきくけ航海日誌

滋賀県立びわ湖フローティングスクール  
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号  
<http://www.uminoko.jp/>



学習のまとめ

「みずうみに学んで 世界の明日をみる」

「かきくけ航海」を生み出そう！

合言葉 か・・・考える き・・・気づく く・・・工夫する  
け・・・継続する こ・・・行動する

## 「ご安全に！」

【所長 新庄 正幸】



三つのあ「挨拶・安全・後始末」を、生活の大きなめあてとしてしています。中でも、フローティングスクール事業は、「安全」であればこそ成り立つものです。児童の生命を守り育てることが、最優先課題であります。

私は、乗船する所員を送り出す時の挨拶に、「ご安全に！」を使うようになりました。「気をつけて！」「ご苦労様！」「頑張って！」「行ってらっしゃい！」などありますが、

「ご安全に！」に、「どうぞ、安全無事に帰ってきてね。」というメッセージを込めています。

というのも、<sup>たつたかすと</sup>竜田一人作「いちえふ」に出会ったからです。「福島第一原子力発電所で働く作業の日常」と「この先何十年かかるともしれない廃炉作業の現実」を作業員の立場から描写してありました。作業に出る際、お互いに掛け合う言葉が「ご安全に！」だそうです。この言葉を頂戴したという訳です。

びわ湖フローティングスクールにおける危機は、次のような事故等を想定しています。

荒天 落水 火災 不審者侵入 エンジントラブル 船体破損 アレルギー対応 食中毒  
異物混入 集団感染 地震 諸検査トラブル 外的被害 交通事故 誘拐など

このように、当スクールならではの安全管理が必要になります。特に、四季を通して様々な気象状況のもとに航海を実施しますことから、自然現象への深い認識と、冷静沈着な判断や、緊急時の適切な対応が求められます。それだけに、当スクールは、乗船校や運航等の業務委託先との連携を図り、関係機関・団体様の支援・協力を受けながら、絶えず健康や安全に対する意識を高め、安全管理に努めながら事業推進を図らなければと気を引きしめています。

### かきくけコーナー

5月2日のカッター活動指導者講習会場の大津港湾は、波風で荒れに荒れていました。講習者には、風上に向かって漕ぎ出す意味やガンネルに手を置いてはダメな理由を、まさに体感していただきました。指導者として「かきくけこ」を実践すべきことが、いっぱい詰まった講習会でした。

私にとってうれしい出来事が、その二日後にありました。講習を受けられた先生から、「所長が挨拶に使われた作文を授業で使いたいから、送付してほしい。」とのご依頼でした。実は、過去の「湖の子」文集から選りすぐりのカッター活動体験記から、子どもの感じ方を引いたものでした。教師魂に火をつけられたかな？と。次頁にその作品をはじめ2作品を紹介します。

## ずっとけカッター活動

「よーいしょっ。」「さあ、がんばれよ。」

フローティングスクールで一番楽しみにしていたカッター活動、学校では、2、3時間くらい練習をとってもらったが、「本物じゃないので気分がでない。」そう思っていると、カッター活動の番がまわってきた。

ぼくたちの乗るカッターは「こはくちょう」という。冬にびわ湖に来る鳥の名前だ。「さあ、いくぞ」という意気込みでカッターに乗った。1番、2番と乗っていき、3番が乗り終わり、4番目にぼくが乗った。ぼくらの左がわだけ少しかたむいた。それは、左がわに重い子がいるからだ。少しふきだしそうになった。

〇〇先生がてい長だった。「さあ、いくよ。」「はあい。」

さあ、出発だ。かいを持った。手にぎゅっと力が入った。それはかいが思ったよりもだいぶ重かったからだ。でも、がんばってやった。ようやく、「かいたて」ができ、次にクラッチの上へかいを置き、皮の部分にあわせた。〇〇先生が、「イチッ。」と言い、ぼくらが、「ヨーイショ。」と言った。ぼくらはなかなかおきへ出らなくて、苦心の末やっと出た。「おっ。いい調子や。」と△△先生が言ったとき、みんなまた一だんががんばった。が、ちょっとはりきりすぎて、調子がくるってしまうところもあった。そして、よく多羅尾小学校の「おしどり」の子たちとぶつかりかけた。時々、△△先生が、「朝宮軍団、がんばれ！」というのでわらえてきた。とてもおもしろかった。

やはり最後の方になると、全員息がそろっているのか、とてもうまくいった。左側は前へこいで、右側はうしろへこぐのをした。これは急に角度をかえる一つのわざだ。ときどき、はら切りをしたり、クラッチからかいがぬける子もいたりした。でも、すぐもとどおりになり、またみんなでこいだ。

カッター活動も終わりに近づいたころ、ようやくぼくもじょうずになった。初めてカッター活動をやってとてもよかった。それに、5年生が一つにまとまったようだった。去年の5年生の人たちはカッター活動ができなかったそうだが、ぼくたちはできて本当に大満足だった。一生に一度しかないフローティングスクール。思い出はたくさんあるけど、その中のカッター活動は、口では言えないほど楽しく、また、おもしろかった。

## 思い出に残る「湖の子」

わくわくしながら待っていたフローティングスクールも無事終わりました。事故のない楽しい思い出を残せる「湖の子」学習にするにはどうすればいいのでしょうか。私は、「きまりを守る」「心がけ」「目的の理解」これらを考えて行動することが大事なのではないかと思います。

まず、事故を起こさないために、きまりを守ることが大切です。甲板の上を走ったり手すりに足をかけたりして、もしも湖に落ちてしまったら大変です。また、せまい船内で走ると、友達に当たることもあります。私たちのように養護学校の子といっしょの学習の場合、ぶつかっただけで大変な事になるかもしれません。

立入禁止になっている所に勝手に入ったり、船内には重要な用具がたくさんあるのに、さわって危険なことが起こったりしても大変です。また、見わたしても岸が見えない船の上では、救命胴衣の着け方もしっかり覚えておくことが大切だと思います。何かが起こっても、すぐに病院へ行ったり助けを呼べなかったり、船の上では、ふだんより注意をはらい、きまりを守ることがとても大切です。

次に「みんなの心がけ」だけでも、楽しい二日間を過ごすことができますと思います。重要な放送が聞き取れないほどさわがない心がけ、みんなが使う設備を大切に使う心がけ、また、シャワーに入っている時に、お湯が出なくなるとは大変ですから、水を節約するという心がけが大切だと思います。あいさつをかわしたり、ゆずり合ったりして、色々な人との触れ合いを楽しむこともいいことだと思います。

最後に、「湖の子」での学習の目的を理解したいと思います。他県には、例のない船上での学習は、胸をはれると思います。日本一大きいびわ湖の真中から郷土を見るのは、なかなかできないことです。また、自分の係に責任を持って、ちがう学校の子と力を合わせるのも、この船のいい所です。

このように、守らなければいけないことを忘れずに思いやりをもって行動し、自分が今いる所では何が大切かを考えると、事故のない楽しい「湖の子」学習になると思います。